

1. 実施概要

(1) 日時

平成31年2月3日(日) 午後2時～午後4時15分

(2) 会場

キャンパスプラザ京都 4階第2講義室

(3) プログラム及び登壇者

①趣旨説明

高田 光雄 氏 京都美術工芸大学教授／京都大学名誉教授

②パネルディスカッション

1) テーマ1

新たなまちづくりの担い手 ～京都の強み‘地域力’にプラスの風を吹き込む～

〈パネリスト〉

北林 功 氏 COS KYOTO 株式会社代表取締役
榊田 隆之 氏 京都信用金庫理事長／仁和寺門前まちづくり協議会理事長
谷口 知弘 氏 福知山公立大学教授
藤崎 壮滋 氏 ぴあぴあコミュニティサポート合同会社代表社員

〈モデレーター〉

大島 祥子 氏 一級建築士事務所スーク創生事務所代表

2) テーマ2

活力を生み出すまちづくり ～事業者とのコラボによって持続可能なまちを創る～

〈パネリスト〉

菅谷 幸弘 氏 六原自治連合会事務局長／六原まちづくり委員会委員長
西嶋 淳 氏 大阪商業大学大学院教授
塗矢 真介 氏 株式会社クラウドリアルティ取締役・最高執行責任者
吉田 光一 氏 株式会社フラットエージェンシー取締役会長

〈モデレーター〉

嘉名 光市 氏 大阪市立大学大学院教授

(4) 参加人数

申込者数155名 当日参加者106名

(5) パネルディスカッションの概要

■テーマ1 新たなまちづくりの担い手 ～京都の強み‘地域力’にプラスの風を吹き込む～

- ・最初に、多様な立場でまちづくりに関わっているパネリストの方々から、自らをまちづくりにおける「風」に例えた場合に、どのような存在であるのか話していただいた。
- ・次に、地域のまちづくりに関わる中で直面している課題点や行政に対する期待などについて意見を出し合った。
- ・そのようなディスカッションの中から、以下のような視点が出された。

- 地域において新たな風を受け入れる寛容性が大切であること
- 新しいことにチャレンジする人を応援する仕組みが必要であること
- 新たな主体として期待されるまちづくり会社の育成が望まれること
- よそ者・若者が意見を言える場が必要であること
- 必要となるまちづくりの仕組みを官民連携によってつくる枠組みが必要であること

(各パネリストの主な意見)

	自らをまちづくりにおける「風」に例えた場合に、どのような存在か	地域のまちづくりに関わる中で直面している課題点や行政に対する期待
藤崎氏	○幅広く人を巻き込むことのできる存在。花粉を運ぶ風のような役割 ○地域・商店街に求められることをマルチに対応している。	○住み続けたいと考えても、仕事がないと選べない。 ○まちづくり会社としての雇用基盤が課題。行政は、地域のまちづくり会社を育てる視点を持って、仕事を与えてほしい。
谷口氏	○風が起こりやすくなるための状況をつくる役。100人委員会や各区のカフェ事業を通じて風を生み出すことの出来る人を生み出した。 ○学生を風に出来るのは地域の人。日常の暮らしの中で地域と学生の関わりを持てるようにすることが大切。	○京都では学生の育成にもっと力を入れてもよいのではないか。 ○学生は経済的な課題も抱えておりバイトに拘束される時間も長い。失敗するための暇もない状況がある。
榊田氏	○風を起こす人が一人でも多くなるように、コミュニティバンクとして皆と一緒に考えていきたい。 ○まちセンとの連携によって実現した京町家への融資制度のように、みんなで仕組みを作ることが大切。	○コミュニティバンクとしては「一緒にやる」ということを意識して動いている。 ○作り手同士をつなげることで、新しい風が吹くようにしたい。社会課題に対してきちんとした考えを持った起業家を応援したい。
北林氏	○台風のように、いろんなものを持ってきたり、混ぜ返すことが役割。そのための交流がもっとできるようにしたい。意見を表明する場が少ないとも感じる。 ○中立性を大切にして、新しいことを言っていきたい。中立的な組織が価値観の違う者を巻き込み、京都を変えていくことができる。	○文化的な価値など、既存の仕組みでは回っていないものがあることに気づくことが必要。 ○新しいことを始めようとする人は批判されがちだが、そこで傷ついて断念する人も多い。新しいことをする人を応援する人がいるということは大切。



■テーマ2 活力を生み出すまちづくり ～事業者とのコラボによって持続可能なまちを創る～

- ・最初に、事業者が地域に入りまちづくりを展開するうえで、事業者が地域と接点を持つきっかけや手法について、各パネリストの立場での経験や考察を話していただいた。
- ・次に、地域まちづくりの新たな支援策として議論されている3つの方向性に関連して必要だと考える「仕組み」「場」「行政施策」について意見を出し合った。
- ・そのようなディスカッションの中から、以下のような視点が出された。

- クラウドファンディングという新たな仕組みによる事業の可能性を受け止める必要があること
- 地域が受け身ではなく雇用などを生み出していくまちづくりの事業を受け止めるスタンスが必要であること
- エリアマネジメントや家守事業のような地域の価値を生み出していく仕掛けが必要であること
- 多様な主体が本音で語り合える場が必要であること

(各パネリストの主な意見)

	事業者が地域と接点を持つきっかけや手法について	必要だと考える「仕組み」「場」「行政施策」について
吉田氏	○大宮商店街は2年間かけて活用できる空き店舗を探し出し新規店舗の出店を促進した。 ○地域の役員が新しいことに取り組もうとする意欲がありうまく進んだ。	○不動産屋として地域に役立つ人材として入ることが出来ればよいが難しい。行政が紹介してくれるような仕組みがあるとよい。
塗矢氏	○クラウドファンディングを理解されている人が多くない中で、一つひとつ丁寧に、関係する業者や取引相手、地域の方々のところに足を運んでしっかりと説明することが本当に大事。 ○京都で不動産事業を行ううえで、地域とコミュニケーションをしっかりと取ることが重要。 ○地域の特性をいかすことの出来る地域の健全な事業者が窓口となって事業展開できるとよい。	○事業者を育てる、呼び込むことができるとうい。そのために地域とカジュアルに出会える場があるとよい。
菅谷氏	○民泊を止めることは難しい中で、民泊にどのように対応するのかという考えに切り替えた。 ○事業者との顔の見える関係があればほとんど問題は起きない。協定を結ぶことを通じて信頼関係が生まれる。 ○運営者と話をして、地域で雇用が生まれたり、文化体験をしてもらうなどの連携ができる。それを地域がどのように受け入れるか。	○地域だけで考えるのが難しい面がある。専門的な意見やアドバイスもらえる仕組みがあるとよい。
西嶋氏	○地域資源の価値観を共有して適切に活用することが大切だが難しい。地域に深刻な問題が起こることをきっかけに地域資源についての議論が進むケースが多い。 ○一過性ではなく、地域にとって大切な地域資源に自らが気づき、大事に育みながら価値観を共有できるかどうか。	○地域側は（民泊などを）仕方なく受け入れるのではなく、主体的に利益を確保しながら地域を守る。そういう機運を見出し、高めていけるようになると良い。

